

こどもホタルレンジャー2018

活動レポート

環境大臣賞

① 団体名 (学校、企業、NGO/NPO など)	よみがな いまがわこどもしぜんくらぶ 今川こども自然クラブ
③ 活動名 (タイトル)	よみがな さとやまのいとなみによって、いまがわのほたるやみずべのいきものをまもろう 里山の営みによって、今川のホタルや水辺の生き物を守ろう
④ 活動場所 (様子や環境など)	・今川 (静岡県湖西市大知波) …2級河川で、湖西連峰から浜名湖に注ぐ数kmの河川。 ・おちばの里親水公園 (静岡県湖西市大知波) …自然豊かな湖西市管理の公園 ・不動谷の森 (静岡県湖西市大知波) …再生した棚田で米作りと森遊び、森作りを行っている。
⑤ 活動したこどもの人数・学年	(例: 小学〇年生 〇人、 中学〇年生 〇人) 小学4年生 17人、小学5年生 5人、小学6年生 9人、中学生 4人 合計 35人
⑥ 活動継続年数	2008年4月1日 ~ 2018年12月21日 上記の期間に 98 回実施した。

⑦ 活動グループ (学校・企業・NGO/NPO など) の紹介 (400 字程度以内で簡潔に)
当クラブは、今川に生息するゲンジボタルもっと広く市民に知っていただき、ホタルの保護の大切さを啓発するとともに、子どもたちにも呼び掛けて、平成20年4月1日に「今川こども自然クラブ」を発足させた。湖西市内の小学生・中学生・高校生が、月1回程度の活動を行い、今川周辺の生き物調査や水質調査、ごみ拾い、森づくりへの協力、森遊び、棚田の米づくりなどを実施してきた。平成22年6月に開催した「ホタル観察会」以来、多数の市民が参加し、子どもたちの取り組みが広く市民に知られるようになってきた。クラブに参加している子どもたちの中には、初めてホタルを見たという子もいて、子どもたち自身がその活動の大切さを再認識するようになった。また、今川とは馴染みの少ない子どもたちも活動に参加しており、市内すべての小学校の子どもたちの参加による活動であるということが、市民の自然保護の意識を変えていくよい機会ともなっている。
⑧ 活動の概要 (600 字程度以内で簡潔に)
湖西市北部を流れる「今川」では、かつてゲンジボタルが乱舞していた。しかし、近年は、その数を減らし、地区民からも忘れ去られた存在となっていた。数の減った原因は、今川の水質悪化によるところが大きい。そのため、今川のホタルを呼び戻そうと、子どもたちが中心となって保護活動を行う「今川こども自然クラブ」を平成20年4月に発足させた。月に1回の活動では、森遊び、水生生物調査、水質浄化、自然観察会などを実施している。 今川の生物調査をするとともに、水質浄化をしていくために、水質調査を実施し、その状況を調べている。さらに、ごみ拾いも実施し、水質が悪化しないように活動している。こうした活動によって、6月から7月までの長い期間にわたって、ゲンジボタルやヘイケボタルの飛ぶ姿が、今川の下流から上流にかけて見られる。今川には、ゲンジボタルの幼虫やカワニナだけではなく、絶滅危惧種のナガレホトケドジョウ、要注目種のカワムツ、カワヨシノボリなどの希少種も数多く生息している。ホタルだけを保護するだけでなく、今川の生態系の保護という視点で活動していくことの大切さに気付き、「森の恵み」にも関心を持って活動を進めている。

※この用紙には、活動したこどもたちの先生や団体の代表（おとな）が記入してください。

※受賞団体の活動報告書等は、環境省のホームページの掲載等、広報活動に活用させていただきます。

⑨ 活動の目標を記入してください。(300 字程度以内で簡潔に)

◎クラブの目標「自然の恵みを生かし、楽しみ、守る、子どもの育成 ～持続可能な『おちばの里』の営みを学ぶ子ども～」

◎重点とする目標

◇おちばの里（里山）の自然を楽しむ、おちばの里（里山）の営みを学ぶ。

◇五感を使って活動する。

◇共に生きようとする心を育む。（自然、人、もの）

◎目指す子どもの姿

◇身近な自然に関心を持ち、自ら働きかける子ども

◇動植物を愛し、生命を大切に使う子ども

◇環境保全に向けて、進んで実践・行動できる子ども

◇自分の考えをしっかりと表現できる子ども

☆2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標（SDGs）」への取り組み

⑩ 活動の内容や調べたことを記入してください。写真やイラストなども添付してください。(2000 字程度以内で簡潔に)

(これまでに実施した具体的な活動内容についてご記入ください)

1 ホタルを守る活動

① 生物調査・川の掃除

・ホタルの小川に住む生物調査をした。カワニナがたくさん見られ、サワガニ、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル、シオカラトンボ、カワトンボ、オニヤンマなどたくさんの生き物が見られた。生き物調査の後、川のゴミを拾ったり、外来種ですぐに増えるクレソンを取ったりして、川をきれいになっている。ただし、クレソンは水質浄化に役立つ。

② ホタル観察会(年2回 ただし、観察可能期間は1か月ほど)

・ホタル観察会には、毎年200人を超える方が来園する。クラブ員の1年間の活動によって、ゲンジボタル、ヘイケボタルが観られるようになった。2種類のホタルが同じ場所で観られる貴重な生息地となっている。

③ 自然観察会(年2回)

・ナガレホトケドジョウやカワムツ、サワガニ、カワヨシノボリ、ヌマエビ、テナガエビ、モクズガニなどを楽しく観察している。

2 水質・生物調査(月に1回実施をする)

・今川上流の生き物調査と水質調査をした。カワニナ、カワムツ、ヨシノボリ、テナガエビ、ナガレホトケドジョウ、カワゲラ、ヘビトンボ、ハグロトンボ、オニヤンマ、ツチガエルなどの様々な水生生物が観察できた。水質は、透明度も高く、パックテストでもきれいなことが分かり、クラブ員によって希少種が多く生息する貴重な川であることも分かった。

3 きれいな川を守るための活動①

・森を守る活動…豊かな水を生み出す森をよく知り、整備をした。植樹をしたり、棚田の田植えをしたりして、楽しく活動することができた。さらに、間伐したコナラやクヌギを使って、シイタケのほだ木を作り、間伐によって森を守るとともに森の恵みをいただくこともできた。

・除伐材でマイボールペン作り…森作りで切った木の枝を利用して、ボールペンを作った。

4 きれいな川を守るための活動②

・森の恵みと植樹…森作りでは、クヌギ、アベマキなどのドングリがなる木の苗を育てて、植樹をした。ドングリは動物のえさになり、落ち葉は栄養豊かな表土になる。また、ドングリでシイの実クッキーを作って食べた。とてもおいしいと好評であった。

・水を汚さない活動…手洗いや食器洗いは、雨水をためて利用している。

・今川が注ぐ浜名湖のアマモ場の観察を行って、浜名湖の環境保護活動に協力した。

5 四季を感じる活動

・自然素材を活かした作品づくり…枯れ葉や木の実、小枝などの集めた自然素材を使って、作品づくりをした。一人一人の工夫によって素晴らしい作品に生まれ変わった。

6 自然保護活動を広げる取り組み

・平成28年8月には「コカ・コーラ環境教育フォーラム」、平成29年2月には「こどもエコクラブ全国フェスティバル(静岡県代表)」平成30年3月には「こどもエコクラブ全国フェスティバル(静岡県代表)・日本環境協会賞受賞」「こどもホタルレンジャー2017・水環境保全賞(銀賞)受賞」にて活動報告をした。また、活動を新聞記事にさせていただき、多くの方に知らせている。

・活動を発信…おちばの里親水公園の休憩所内に活動コーナーを作って、活動内容を写真を付けて掲示している。

・活動したことを学校での学習に生かすようにしている。さらに、学校の学習との連携を図ることも行っている。

※活動したこどもたちの意見・考えを取りまとめて、先生や団体の代表が記入してください。

⑩ 活動の内容や調べたことを記入してください。写真やイラストなども添付してください。(2000 字程度以内で簡潔に)

(これまでに実施した具体的な活動内容についてご記入ください)

◎1年間の活動の様子<平成30年1月(第9回)~平成30年7月(第3回)まで>

「今川こども自然クラブ⑨」

自然を守る活動、自然を楽しむ活動

平成30年1月20日



【間伐材や除伐材などを利用した手作り遊具で遊ぶ子どもたち】



【枯れ葉を集めて、圃田の肥料を作る子どもたち】



【こま回し活動】 【除伐材で作った「マイボールペン」・おやつは収穫した野菜や果物】
間伐材を利用した手作り遊具で遊んだり、枯れ葉で肥料作りをしたりして、自然のおもしろさやよさを実感した。その後、除伐材を使ってマイボールペンを作った。小刀の使い方も慣れ、自然の恵みを利用することや、自然と共生することの大切さを学んだ。

「今川こども自然クラブ⑩」

自然を守り親しんだ1年間を振り返る。

平成30年2月4日



【早秋きの「大知識杯」(1月下旬から2月上旬に開催)の音に肥料をやる子どもたち】



【間伐したコナラを利用してシタケのほた木を作る子どもたち】



【公園のゴミ拾い活動】 【シタケのほた木を保管する子どもたち】
1年間の活動を通して、今川こども自然クラブに参加した子どもたちは、自然とふれあいながら楽しく遊び、その中から自然のおもしろさ、不思議さを学んだ。そして、知らず知らずのうちに自然と共生しながら、自然保護活動の大切さを自覚していった。

「今川こども自然クラブ①」

自然とのふれあいを楽しむクラブの活動

平成30年5月6日



【参加した市内の小学生のよる田植え】



【圃田の田植えをする子どもたち】



【夢中になって田植えをする子どもたち】 【全て手植えでやった子どもたち】
第1回は、オリエンテーションと、田植え、森遊び、森の学習を行った。きれいな水の流れる不動谷の森で、里山での自然の恵みを実感しながら、その大切さを学んだ。

〈平成30年1月(第9回)〉

間伐材を利用した手作り遊具で遊んだり、枯れ葉で肥料作りをしたりして、自然のおもしろさやよさを実感した。その後、除伐材を使ってマイボールペンを作った。小刀の使い方も慣れ、自然の恵みを利用することや、自然と共生することの大切さを学んだ。

◆【SDGs】2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年2月(第10回)〉

1年間の活動を通して、今川こども自然クラブに参加した子どもたちは、自然とふれあいながら楽しく遊び、その中から自然のおもしろさ、不思議さを学んだ。そして、知らず知らずのうちに自然と共生しながら、自然保護活動の大切さを自覚していった。

◆【SDGs】2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年5月(第1回)〉

第1回は、オリエンテーションと、田植え、森遊び、森の学習を行った。きれいな水の流れる不動谷の森で、里山での自然の恵みを実感しながら、その大切さを学んだ。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

「今川こども自然クラブ②」

生物調査・自然素材を生かした遊び等

平成30年6月3日



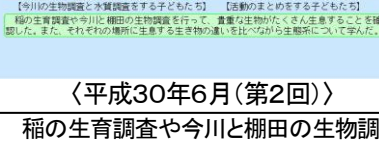
【稲の生育調査と生き物調査をする子どもたち】



【稲で育てたスイカを食べる子どもたち】



【手作りの遊具で遊ぶ子どもたち】



【今川の生き物調査をする子どもたち】

稲の生育調査や今川と圃田の生物調査を行って、貴重な生物がたくさん生息することを確認した。また、それぞれの場所に生息する生き物の違いを比べながら生態系について学んだ。

◆【SDGs】2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

「今川こども自然クラブ(特別活動①)」

ホタルの保護活動(ホタル観察会)

平成30年6月9日



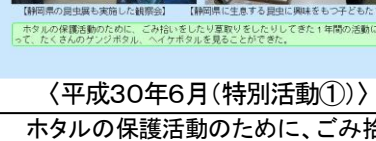
【観察会に集まった子どもたち】



【ホタル観察をする参加者】



【子どもたちに安全なホタル観察会】



【ホタルに興味をもつ子どもたち】

ホタルの保護活動のために、ごみ拾いをしたり草取りをしたりしてきた1年間の活動によって、たくさんのゲンジボタル、ヘイケボタルを見ることができた。

◆【SDGs】6(水・衛生)・13(気候変動)・15(陸上資源)

「今川こども自然クラブ(特別活動②)」

放置竹林を有効利用した竹炭作り

平成30年7月14日・15日



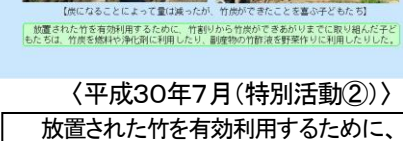
【自分たちで割った竹を炭入れする子どもたち】



【1日目午後9時 炭に火を入れる子どもたち】



【炭になることによって量は減ったが、竹炭ができたことを喜ぶ子どもたち】



【炭になることによって量は減ったが、竹炭ができたことを喜ぶ子どもたち】

放置された竹を有効利用するために、竹割りから竹炭ができてから取り組んだ子どもたちは、竹炭を燃料や浄化剤に利用したり、副産物の竹酢液を野菜作りに利用したりした。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年6月(第2回)〉

稲の生育調査や今川と圃田の生物調査を行って、貴重な生物がたくさん生息することを確認した。また、それぞれの場所に生息する生き物の違いを比べながら生態系について学んだ。

◆【SDGs】2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年6月(特別活動①)〉

ホタルの保護活動のために、ごみ拾いをしたり草取りをしたりしてきた1年間の活動によって、たくさんのゲンジボタル、ヘイケボタルを見ることができた。

◆【SDGs】6(水・衛生)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年7月(特別活動②)〉

放置された竹を有効利用するために、竹割りから竹炭ができてから取り組んだ子どもたちは、竹炭を燃料や浄化剤に利用したり、副産物の竹酢液を野菜作りに利用したりした。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

⑩ 活動の内容や調べたことを記入してください。写真やイラストなども添付してください。(2000 字程度以内で簡潔に)

(これまでに実施した具体的な活動内容についてご記入ください)

◎1年間の活動の様子(平成30年7月(第3回)～平成30年12月(第8回)まで)

「今川こども自然クラブ③」

公園整備、アイガモ農法、生物調査等 平成30年7月14日



【公園の清掃活動をする子どもたち】

【アジサイの花摘みをする子どもたち】



【畦田で田の草取りや稲の生育に良いことからアイガモ農法に取り組み子どもたち】



【今川の生き物調査をする子どもたち】

【今川の水質調査をする子どもたち】

活動の場となっている公園をいつもきれいにしておこうと、ごみ拾いや樹木の手入れをした。さらに、アイガモ農法や、定期的に生き物や水質調査をして保護活動に取り組んだ。

「今川こども自然クラブ④」

上流部の生物調査、清掃活動 平成30年8月19日



【毎月清掃活動をする子どもたち】

【環境保全のために活動する子どもたち】



【川遊びをしながら、上流部の生物調査をする子どもたち】

【生物調査をする子どもたち】



【生物調査をする子どもたち】

【活動のまとめる子どもたち】

自然保護活動の一環として川や公園のごみ拾いをし、いつもきれいな環境づくりに協力した。猛暑の中、安全に気をつけながら、上流部で川遊びや生物調査して、水温の低さを感じながら活動した。活動後は、活動を振り返った。

「今川こども自然クラブ⑤」

クラフトと味噌汁作り、棚田の稲刈り等 平成30年9月22日



【自然素材を利用して、バランスを考えながらヤジロペエを作る子どもたち】



【稲刈りをする子どもたち】



クラフトをやってから、あっという間に稲刈りも終わりました。稲刈りをしてから天日に干して、味噌汁を作りました。泥だらけになってあつという間に刈り取った稲を干し終え、森遊びを楽しんだ。

〈平成30年7月(第3回)〉

活動の場となっている公園をいつもきれいにしておこうと、ごみ拾いや樹木の手入れをした。さらに、アイガモ農法や、定期的に生き物や水質調査をして保護活動に取り組んだ。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年8月(第4回)〉

自然保護活動の一環として川や公園のごみ拾いをし、きれいな環境づくりに協力した。猛暑の中、安全に気をつけながら、上流部で川遊びや生物調査して、水温の低さを感じながら活動した。活動後は、活動を振り返った。

◆【SDGs】2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年9月(第5回)〉

クラフトをやってから、5月に苗植えをしてから大切に育ててきた稲を刈り取った。泥だらけになってあつという間に刈り取った稲を干し終え、森遊びを楽しんだ。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

「今川こども自然クラブ⑥」

稲の脱穀とシイの実クッキー作り等 平成30年10月28日



【干した稲を脱穀する子どもたち】

【脱穀して殻(もみ)が出てくる様子を見る子どもたち】



【産地である大和(奈良県)で育てているシイタケを収穫して、おやつにする子どもたち】



【シイタケクッキー作りをする子どもたち】

【自然の恵みをいただく子どもたち】

里山では、自然の恵みによって米やミカンができることを、体験を通して学ぶことができた。毎年繰り返される里山の営みは、自然の恵みによって持続していることを学んだ。

「今川こども自然クラブ⑦」

自然保護活動、自然の恵みをいただく 平成30年11月17日



【清掃活動をする子どもたち】

【自分たちで育てているミカンを収穫する子どもたち】



【川遊びを楽しむ子どもたち】

【米作りで収穫した新米を炊く子どもたち】



【自分たちで作った新米を、自分でおにぎりにして食べる子どもたち】

【新米を自分たちで水洗いし、水の量や火加減に気をつけながら釜でごはんを上手に炊いた。たい肥作りから1年掛けてようやく食べられた子どもたちは、自然の恵みに感謝した。】

新米を自分たちで水洗いし、水の量や火加減に気をつけながら釜でごはんを上手に炊いた。たい肥作りから1年掛けてようやく食べられた子どもたちは、自然の恵みに感謝した。

「今川こども自然クラブ⑧」

自然を守る活動、自然を感じ楽しむ活動 平成30年12月9日



【毎月清掃活動をする子どもたち】



【子どもたちが作ったばかりに収穫した大量のシイタケに満足な子どもたち】



【10月に脱穀した新米で、自分たちで餅をついて美味しくいただく子どもたち】

里山の営みを体験した子どもたちは、米やミカン、シイタケなど、多くの自然の恵みをいただくことができた。自然と共存することによって、持続している営みを体験し、感謝した。

〈平成30年10月(第6回)〉

里山では、自然の恵みによって米やミカンができることを、体験を通して学ぶことができた。毎年繰り返される里山の営みは、自然の恵みによって持続していることを学んだ。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年11月(第7回)〉

新米を自分たちで水洗いし、水の量や火加減に気をつけながら釜でごはんを上手に炊いた。たい肥作りから1年掛けてようやく食べられた子どもたちは、自然の恵みに感謝した。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

〈平成30年12月(第8回)〉

里山の営みを体験した子どもたちは、米やミカン、シイタケなど、多くの自然の恵みをいただくことができた。自然と共存することによって、持続している営みを体験し、感謝した。

◆【SDGs】1(貧困)・2(飢餓)・3(保健)・6(水・衛生)・7(エネルギー)・10(不平等)・12(生産・消費)・13(気候変動)・15(陸上資源)

⑪ 活動で工夫したこと・気づいたことなどを記入してください。(800 字程度以内で簡潔に)

ホタルの保護から始まった今川子ども自然クラブの活動が、保護をするためには水質調査や生物調査をしていくことが大切だと気づき、環境に対する私たちの興味や関心が高まり、楽しく活動することにつながっていった。ホタルは年々増え、公園を訪れる人たちの目を楽しませている。さらに、きれいな川を守るために、森を知る活動から森づくりにつながったり、雨水をタンクにためて、少ない水で洗うことに取り組んだりして、独創的な活動に発展した。そして、このことによって私たちの活動が地域にも広がっていくことになった。その地域の自然を守りながら再生をしていく取り組みは、動植物を移入して再生していく活動とは全く違い、生態系を壊さない取り組みとして評価していただいている。

しかし、活動している私たちは、森の恵みを感じながら、森遊びをしたり、川遊びをしたりして、楽しみながら活動していることが大変な喜びとなっていった。やらされている活動ではなく、やりたくなる活動になっていることが、私たちの活動の充実にもつながった。里山の自然の中で、自然保護活動をしたり、遊んだりしながら、自然のおもしろさ、不思議さ、大切さを実感することができた。さらに、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標 (SDGs)」への取り組みを入れることで、子どもたちが地球規模で考え、取り組むようになってきたことが成果となってきている。

【クラブ員の声】

- ・参加する前は、自然とふれることが少なかったの、参加してとてもよかった。来年もやりたい。
- ・里山で行ったことが、持続可能な取り組みだと分かってとてもすごいと思った。
- ・ふだんできない自然の本当のおもしろさ、不思議さを実感し、自然に興味がわいてきた。
- ・自然の中で遊ぶと、時間のたつのを忘れてしまうくらいに楽しかった。
- ・遊んだり楽しんだりしている活動が、自然を守る活動につながっていることがよかった。
- ・森の自然を守ることが、浜名湖の生き物を守ることだとわかってよかった。
- ・自然のことを楽しみながら学べたし、公園がいつもきれいになってよかった。そして、生き物がすみやすい環境づくりができてよかった。
- ・小刀やのこぎりなどを使っているうちに、だんだんうまくなったので、図工の工作が楽しみになってきた。
- ・自然の物を使って楽しく時間を過ごすことができた。昔の人は、知恵を働かせて、環境を破かいたないようにしていたのですごいと思った。覚えたことをこれから生かしてみたい。
- ・アイガモ農法では、アイガモに草を食べてもらったり、どろをかき混ぜてもらったりしてとてもすごいと思った。

⑫ 活動からわかった課題、自分たち「こどもホタルレンジャー」にできることを記入してください。

(800 字程度以内で簡潔に)

私たちの活動の成果が、社会科や理科、総合的な学習の時間、図工(美術)等の学習に生かせるようにした。そして、森の仕組みや大切さ、米づくり、シイタケづくり等、私たちが楽しく活動しながら、日常生活や学校での学習に生かせるようにしてきた取り組みを、さらに発展させ、家や学校では体験しにくい活動に取り組んでいきたいと考えている。

豊かな自然の中で活動することによって、生き生き、そしてのびのびと過ごしている。自然は、私たちの成長にとって大変大切なことであるので、今川子ども自然クラブの活動の中に、学校での活動を生かせるようにしていきたい。具体的には、森の遊び場作りを進めることと、活動が広がるようにいろいろな団体と協力しながら自然保護活動を進めていきたいと考えている。

私たちの先輩には、今川子ども自然クラブでの体験を作文に書いたり、興味や関心を高めたりして、成果を上げている子もいる。平成22年度「静岡県水の作文コンクール」では、県知事賞と県教育長賞を受賞し、平成22年度「静岡県環境作文コンクール」では、県教育長賞を受賞している。さらに、静岡県子ども環境大使として、ハワイに派遣されたクラブ員もいる。平成23年度は、「静岡県水の作文コンクール」「静岡県環境作文コンクール」ともに局長賞を受賞している。平成24年度・25年度にも、「静岡県水の作文コンクール」で入賞をしている。平成26年8月に「全日本中学生水の作文コンクール」で「内閣総理大臣賞」をいただいた作文が、「日本文教出版株式会社」より平成28年度「中学校道徳用副読本」に掲載されている。平成28年8月には、「コカ・コーラ環境教育賞優秀賞」を受賞したり、平成29年2月には「こどもエコクラブ全国フェスティバル静岡県代表」、平成30年3月には「こどもエコクラブ全国フェスティバル(静岡県代表)・日本環境協会賞受賞」「こどもホタルレンジャー2017・水環境保全賞(銀賞)受賞」したりしている。

クラブ員一人一人が、環境への高い問題意識をもったことと、多くの方々に自然保護の大切さを実感していただいたことが、10年間の活動で得られた成果だと考える。その成果は、こどもホタルレンジャー事務局からの「環境大臣賞」や、こどもエコクラブ全国事務局からの「コカ・コーラ賞」につながったと考えている。さらに、その活動が、浜松市と湖西市が協力して取り組んでいる「浜名湖の水をきれいにする会」からの「湖水美化功労賞」。そして、「湖西市教育委員会特別表彰」「第1回ふるさと貢献賞」につながったと考えている。私たちの取り組みは、さらに広がっていくようにしていきたい。

【こどもホタルレンジャーにできること】

- ・生き物観察会で生き物のことを知ったり、森遊びをみんなに楽しんでもらったりすると、みんなが楽しくなると思う。
- ・いつも公園にゴミがないことが自慢です。ぼくたちがいつもきれいにしているから、みんなもきれいにしてくれているんだと思います。

※活動した子どもたちの意見・考えを取りまとめた、先生や団体の代表が記入してください。

⑬ 活動して「気がついたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に記入してください。
写真や絵などでもOKです。

(例)・活動を始めたきっかけ ・どんなことに興味を持ったか ・やってみてと思ったこと
・感じたことやおもしろかったこと ・大人と一緒に改善していきたいこと など

- ・米作りがとても楽しかった。自分たちで田植えから収穫まで全部やって食べたときは、とてもおいしいと感じた。それは、自分たちで作ったからだと思う。
- ・1年間の自然クラブの中で楽しかったのは全てです。森の中で遊んだことがとても楽しかったし、生き物観察会は生き物の生態が分かったからよかった。もちつきは、やったことがなかったの、とても楽しかった。
- ・いろいろな生き物を知ることができたりさわることで勉強になった。
- ・生き物観察会でいろいろな生物を知ることができた。米作りでは、田植えをしったり稲を刈ったりする方法を知ることができた。クラフトでは、いろいろな道具を使えるようになってとてもよかった。
- ・ぼくは、ゴミ拾いと生き物観察会をやったよかったと思いました。ゴミ拾いは、公園がきれいになりました。それに、この里山の動植物にとっていい環境になったと思うからです。生き物観察会は、川にどんな生き物がいるかを初めて知って、川の生き物は、そこで生きているのが一番いいことが分かった。
- ・水生生物調査で、今川にすんでいる魚などのいろいろな生き物を見られてよかった。クラフトは、自然のいろいろな物を使って、ボールペンやヤジロベエなどを作ることができて楽しかった。ゴミ拾いでは、ゴミを拾って、公園がきれいになってよかった。
- ・生き物観察会の時、観察ができて、魚の種類が分かったからよかった。パックテストの使い方が分かってよかった。
- ・米作りを初めて経験したこと、釜でご飯を作ったこと。ボールペンを木で作ることを体験したこと。ゴミをたくさん拾ってきれいにしたこと。
- ・自然の物を使ってクラフトができたから楽しかった。
- ・ゴミ拾いは、今川の自然を守れたし、生き物観察は、今川にすんでいる生き物を見られたからよかった。
- ・遊んだり楽しく活動したりしているうちに、環境によい活動をしていてよかったと思います。
- ・森や川には、いろいろな生き物がいることを知りました。米作りでは、田植えや稲刈りなどの貴重な体験ができたのでよかったです。アイガモ農法が分かってよかった。アイガモがとてもかわいかった。
- ・森では、二酸化炭素を植物が吸ってくれてためたり、酸素に変えたりしてとても大切なこと、米作りは米という字のように八十八の苦労があると聞いていたので、本当だと分かりました。虫よりも海や川、湖の生き物に興味があるので、今川の生き物の観察は楽しかったです。
- ・ホタル観察会は、とてもきれいに光っていて、神秘的でよかったです。ゲンジボタルをさわられてよかった。
- ・自然がちょっときれいになったし、自然の落ち葉を使って肥料を作れるということを知ったこと。
- ・おやつはいつもおじさんたちが作った野菜や果物だったので、とてもおいしかった。みかんはぼくたちが育てているので、もっとたくさんできるといいなと思った。
- ・自然クラブは、まきを燃料にしたり水をためていたりしてすごいと思った。



【雨水を利用する子どもたち】



【田植えの新聞記事】



【稲刈りの新聞記事】



※活動した子どもたち自身が記入してください。